

## 平成28年度診療報酬改定～お薬に関わること～

医療連携患者支援センター ソーシャルワーカー部門 山下 祐理子

みなさんおくすり手帳をお持ちになっていますでしょうか。

おくすり手帳とは“いつ・どこで・どんな”薬をもらったかを記録しておく手帳になります。薬の名前・量・日数・使用法のほか、副作用歴、アレルギーの有無、過去にかかった病気、体調の変化などについても記入することができ、自身の体調・病歴を管理する上でとても大切な記録となります。また、旅行先での急な医療機関の受診、転居後の薬局受診、災害時などにも自分の薬の情報を正確に伝えることができます。2011年の東日本大震災においては、救護に当たる医療関係者の間でその有用性が注目され、改めておくすり手帳の重要性が認識されることとなりました。

このような役割を果たすおくすり手帳は、診療報酬においても評価され「薬剤服用歴管理指導料」として組み込まれました。今まで410円の算定でしたが、平成28年度の診療報酬改定により初回、または手帳なしの場合は500円の算定です。但し、同じ薬局に6ヶ月以内の間に繰り返し処方箋を持っていき、その際におくすり手帳を提出することで380円に減らすことができます。毎回異なる薬局にかかると500円の算定となります。かかりつけ薬局を持ち、おくすり手帳を提示することで、3割負担の方で36円安くなる計算です。

高齢化などに伴い、複数の医療機関を受診される患者さんが増えており、それぞれの医療機関からお薬を処方されると、重複してお薬が出されたり、飲み合わせが悪かったりする場合があります。おくすり手帳を持つことで、投薬の重複や不適切な薬の処方を防ぐことが可能になりますので、薬局に行かれる際には忘れずにお持ち下さい。

ご不明な点やお知りになりたいこと等ございましたら当院の医療連携・患者支援センターにご相談下さい。



### 外来受診のご案内

- 開扉時間 8:10
- 受付時間 初診 8:30~11:00 再診 8:30~11:00  
※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- 休診日 日曜日・祝日・第3土曜／創立記念日(6月10日)  
年末年始(12月29日~1月3日)
- 代表電話番号 043-462-8811  
予約変更専用 043-462-0489(平日14時~16時)
- 健康保険証(原本)、その他の公費負担受給者証(原本)を必ずご持参下さい。
- 各科外来担当医はホームページ  
<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> をご覧ください。

### お見舞いについて

#### 【面会時間】

平 日	15:00~19:00
土・日・祝日 創立記念日 年 末 年 始	11:00~19:00 (2階西病棟13:00~19:00)

防災センターで面会手続きの上、お見舞いカードを装着してお入り下さい。  
時間内の面会が無理な場合は看護師にご相談下さい。  
状況に応じ時間外面会許可証を発行いたします。

### 編集後記

自然いっぱいの佐倉の緑が眩しい季節になりました。今年の夏はリオデジャネイロオリンピックの大きなイベントがありますが、その前にはユーロ2016というヨーロッパのサッカーチャンピオン国を決める大会もあって、4年に一度の暑いスポーツの夏です。どちらも日本と時差がありテレビ観戦も難しいですが、そんなことからも世界の広さを感じる機会になるでしょう。スポーツですから、勝っても負けてもたくさんの笑顔が見られますように。（皮膚科 横口 哲也）



編集・発行：東邦大学医療センター佐倉病院 広報委員会  
〒285-8741 佐倉市下志津564-1 TEL.043-462-8811(代表)  
発行月：2016年7月【年4回（1・4・7・10月）発行】  
URL：<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>

# SAKURAdayori

東邦大学医療センター  
佐倉病院の基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

## 教育連携・医療連携と広報

副院長(広報・教育・検査研究担当) 蛭田 啓之



広報・教育担当の院長補佐を6年間務めて参りましたが、昨年7月より副院長として、引き続き広報・教育と、検査・研究管理にもたずさわっております。教育は龍野副院长を、検査・研究は武城院長補佐をサポートし、より強力な体制創りを目指しています。診療科としては病理診断を担当しておりますので、患者さんに直接お目にかかることはほとんどありません。

現在の医師臨床研修制度は平成16年に始まり13年目に入りましたが、さらに来年4月からは新しい専門医制度による後期研修が開始(試行)される予定です。日本専門医機構によって研修プログラムの評価・認定が行われますが、将来的には医師の診療科の偏り、地域の偏在の是正にも繋がるものと思われます。佐倉病院多くの科が研修の基幹となり、臨床教育に貢献しなければなりません。前期・後期ともに地域での研修が必須とされていますが、当院の研修医教育は、研修に係る地域での教育と医療連携の関係も重視してきました。研修指導医の講習会と研修医のワークショップを同時開催して共同プログラムを設け、さらに地域の先生方にも加わって頂く「地域医療・教育連携談話会」も企画して地域の教育関係を深め、教育の連携が医療連携に関与・発展するように心がけています。また、学生の臨床実習においても地域の

医療機関に多大な協力を頂いておりますし、本学医学部入学定員には昨年度から毎年5名の千葉県地域枠を設けられています。

このように、佐倉病院は診療における地域医療機関との連携はもちろん、学生・研修医教育を通じ、将来の連携強化を目指しています。さらに医師の確保と教育の充実に努め、診療体制の強化を図るとともに、地域医療の整備・発展にも貢献いたします。地域の皆様とは、広報誌と毎回2名の専門家を紹介する「The Professional」、公開講座などを通じて情報を発信し、相互理解を深めて参ります。

当院は1991年9月の開院以来、25年目を迎えております。その間、増床と日本医療機能評価機構による3度の審査を終え、診療の充実を図る一方で、若いスタッフや研修医も増えました。教育は基本的部分で受け継がれ、それが病院の文化・伝統となり、診療の質の確保・教職員の人格醸成に繋がり、品格が備わってきます。院内外の教育連携と医療連携・地域医療は密接に関わり、地域の皆様・患者さんのご協力も欠かせません。東邦大学の良き伝統・カラーに加え、地域と共に佐倉イズムを育み、誇れる医療・教育体制の構築を目指して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

## 知っておきたい眼の病気



木下 太賀 助教

さる2016年4月2日土曜日に、「眼の病気」をテーマとした市民公開講座が東邦大学医療センター佐倉病院にて開催されました。「白内障」、「緑内障」、「加齢黄斑変性」という目の疾患を題材に講演が行われ、多くの市民の方にお集まりいただきました。

まずは「白内障」を永岡医師より講義していただきました。まず目の構造から始まり、多くは加齢によって水晶体というレンズが混濁することによって視力が低下すること、また、手術はビデオで分かりやすく説明していただきました。聴講された方々は、白内障が年齢を重ねれば必ず誰しもなる病気で、市民の方にも身近なものであることから熱心にメモを取りながら講演を聞く姿が見られました。白内障手術は大病院でなくとも広く一般的に行われていることから、簡単な手術というイメージが持たれやすいですが、手術にはリスクがあり、また各人の抱えている問題は同じではなく、全ての人が手術をすれば必ず視力が良くなるとは限らないという注意点もお話がありました。講義の最後にはよくある質問とその答えという形で、白内障に関するいろいろな疑問を解消してくださいました。

次に、「緑内障」については坂本助教より講義がありま



眼科 木下 太賀

た。緑内障は40歳以上の日本人の約6%にみられる病気であること、眼圧や視野の検査が重要であること、本人が気づいた時には末期であることが多いこと、検診による初期発見が重要であることなど、緑内障がどういった病気なのか、治療方法まで細かく説明されました。緑内障の治療は眼圧を下げる目的ですが、点眼・内服・手術など方法は多岐にわたります。専門性の高い内容であるにもかかわらず、市民の方は熱心に聞いておられました。

最後に、私から「加齢黄斑変性」について、特徴的な症状や自宅でも出来る簡単な病気の発見方法から病院で行われる検査方法、治疗方法を説明しました。講義の最後には加齢黄斑変性の予防について、紫外線を避ける、禁煙する、食生活に気を付けるなどの方法を説明しました。

一通りの講義が終了した後は質疑応答の時間でしたが、市民の皆様は日頃から勉強熱心で、質問が次々とあがり、予定されていた時間になんでも途切れることなく盛況でした。

今回の市民公開講座を受講することで、市民の方々がそれぞれ目の疾患について正しい情報を得、QOL(生活の質)を保ちながら健康な生活を送ることに少しでもお役に立てれば幸いです。

### 2016年 公開講座のお知らせ (入場無料・申込不要・200席)

開催予定日	講演予定テーマ	担当
7月9日 (土)	「お父さんの健康を考えよう！」 ～前立腺の病気を知ろう～ 前立腺肥大症・前立腺がん～	〈泌尿器科〉 鈴木 啓悦・他
7月23日 (土)	＜地域で考えるケアと治療＞ ～「お酒」と「からだ」～ “診断と治療”	糖内代センター・消化器センター・神経内科・脳神経外科・メンタルヘルスクリニック・サイコソーシャルワーカー・臨床心理士
9月3日 (土)	＜がん撲滅キャンペーン＞ 「通院できる、がん治療の進歩」	〈化学療法室〉 岡住 慎一・清水 直美・他
10月22日 (土)	「あなたの身边にもある不整脈」 「自然災害と循環器疾患」	〈循環器内科〉 野呂 真人・清水 一寛・他
11月26日 (土)	＜地域で考えるケアと治療＞ 「ものわすれ」（認知症）と共に歩む	神経内科・メンタルヘルスクリニック・薬剤部 脳神経外科・リハビリテーション部 臨床心理・ソーシャルワーカー・看護部
12月10日 (土)	「腎臓と健康」	〈腎臓内科・他〉 大橋 靖・他

※SAKURAdayori Vol.26(4月発行)でご案内した7月23日の講演内容が変更となりました。

当院ではほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした公開講座を企画しております。多くの市民・医療関係者の皆様にご参加いただき、病気の予防や早期発見、地域医療の発展に役立つようにと考えています。いずれの講座も14時から当院東棟7階講堂で開催する予定です。詳細はテーマごとに院内掲示およびホームページなどでご案内いたします。お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課までご連絡下さい。

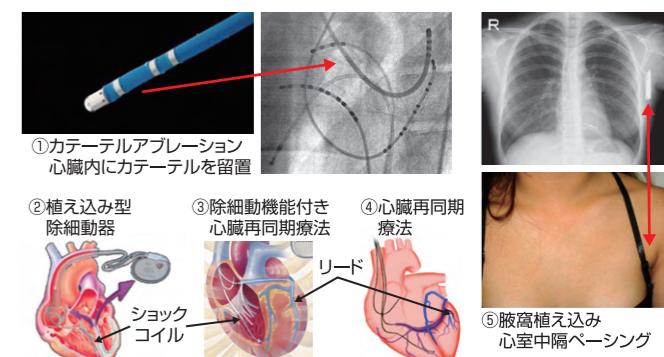
## 動悸、フラツキ感、不整脈の検査と治療



循環器内科 野呂 真人

心臓を複数個所からペーシングして心臓の動きを助ける心臓再同期療法を行っております。

これらの治療法は日進月歩で発展しておりますが、当院では最新の治療法を学会等で発表し、オピニオンリーダーとして最先端の技術で治療を行っております。



【図の説明】

- ①カテーテルアブレーション 心臓内にカテーテルを留置して不整脈の発症部分を焼灼し、不整脈を根治する。
- ②植込み型除細動器 突然死を予防する。AEDと同様の機能を有している。
- ③除細動機能付き心臓再同期療法 心臓再同期療法と植込み型除細動器が合体した機器である。
- ④心臓再同期療法 難治性心不全の治療に用いる。
- ⑤腋窩植込みのペースメーカー わきの下にペースメーカーを植え込むことで、美容的、機能的に充足できる。

## 新生児集中ケア認定看護師の活動



小笠原 有希子

通常赤ちゃんが生まれる時は、新生児蘇生法の認定を受けた産科医師と助産師が、そしてNICUに入院することが予測される赤ちゃんが生まれる時は、同じく新生児蘇生法の認定を受けたNICU医師と看護師がチームとなり、出生時の赤ちゃんのケアを実施しています。人の一生の中で最も生命の危険にさらされる場面が、出生直後であると言われています。当院では毎年、当院の産科・NICUスタッフや千葉県内の助産師・看護師を対象に、産科の木下教授と一緒に新生児蘇生法の講習会を開催しています。写真は昨年度の新生児蘇生法講習終了後に撮影したもので(後列右・筆者、後列左・木下教授)。これまでに新生児蘇生法の修了認定を受けた人は80名を超えています。

これからも、当院で出産される方が安全・安心なお産を迎えるように、医師と協力しながら新生児集中ケア認定看護師として新生児蘇生法の普及に努めていきたいと思います。

